

シリーズ勉強会『地域の公共交通とまちづくりを考える』
第25回「ピンポイントテーマディスカッション」その6

「送迎人生」を考えてみる

令和8年1月

北勢線とまち育みを考える会

シリーズ勉強会 第5クール 「ピンポイントテーマディスカッション」

- 第1クール 地域交通の基礎知識の習得
- 第2クール 基礎知識に基づいたテーマディスカッション
- 第3クール 個別テーマにフォーカスしたディスカッション
- 第4クール 地域の将来像を見える形で表現してみる
- 第5クール **ピンポイントテーマディスカッション**

山陽新聞 コラム「滴一滴」

「送迎人生」の軽減を！ 令和7年3月26日

滴一滴

「送迎人生」という言葉を最近知った。マイカーで、子どもの通学や塾通い、パートナーの通勤、親の通院といった送迎を過度に一人が担う大変さを表しているという。多かれ少なかれ、移動の一部を送迎に頼っている話はよく聞く。土井勉・一般社団法人グローバル交流推進機構理事長らの近畿圏での実態分析では、送迎を担うのは7対3で女性が多い。**お母さんが家族の移動を支える姿が思い浮かぶ。**都心、郊外、地方と公共交通が不便になる順に送迎の割合が増える。**送迎する側は自分の時間を犠牲にし、就業の機会も失われる。**すると次世代などがそこに住む選択をしにくくなる、と指摘している。

山陽新聞 コラム「滴一滴」



滴一滴

その改善に役立った好事例がある。瀬戸内市は2022年、民間バスが運行していた二つの路線を市営バスに転換した。便数や運行時間帯はほぼ引き継ぎ、**運賃は1乗車が100円**などと格安にした。すると利用者数は1・5倍と2・8倍に増えた。その大きな要因が**通学定期の利用増で2・3倍**にもなった。定期代が半年間で1万800円などと大幅に下がり、**送迎からバス利用に変わったケースが多い**とみられる。入学や就職、転勤の時季を迎えた。これから送迎を始める人もいるだろう。公共交通が使いやすくなって、送迎人生が軽減される―。気付きにくいだが、地域の重要な課題だ。

今日のディスカッションのテーマは・・・

公共交通などの整備が十分に行き届いていない過疎地域では、送迎が最後の移動手段となってしまうこともあり、送迎交通のすべてを否定することはできません。しかし、先ほどの新聞のコラムにあるように、交通政策を考えるうえで送迎には様々な問題があることに気づきます。

今日はこの送迎交通が持つ問題について一緒に考えて議論をしてみたいと思います。

話題提供プレゼンテーション

「送迎人生」って何だろう？

「送迎人生」って何だ？

自分で自動車を運転できない人たちや駐車場がないところに行くためには、誰かが送迎をすることが必要になる。その送迎の重荷が過度にひとりの人に集中して大変だということを比喩的に表現したのが「送迎人生」。

送迎の持つ役割

送迎には目的地まで自律的な移動手段を持たない人たちの移動を支える重要な役割がある。公共交通の十分に整備されていない地域では送迎が不可欠な場合もある。それは重荷である一方で、送迎中の時間が家族との大切な会話の場になっているという見方もできる。

送迎だけに頼っていると移動が困難になることも・・・

送迎の意義や役割は否定しないものの、送迎以外に頼ることができる移動手段を持たない人々にとって、仮に送迎の担い手に何らかの不都合が生じた場合には、望む移動ができなくなることにもなりかねない。

送迎される人にとって・・・

送迎される人たちは、運転する人の時間や手間を費やしてもらうことになるので、通院など生きていく上で**必要不可欠な移動以外は遠慮や気兼ね**が働いて、**送迎の依頼をしない**ことが多くあるという指摘がしばしばされている。

例えば必要不可欠とな見られにくい**友人たちとの交流や遊びのための外出等**はどうしても送迎を依頼しにくくなり、そうした外出は潜在化してしまう。本当は友人たちとの交流も遊びも心や身体のためには重要な活動なのに、こうした活動が潜在化してしまうことは決して望ましいことではない。

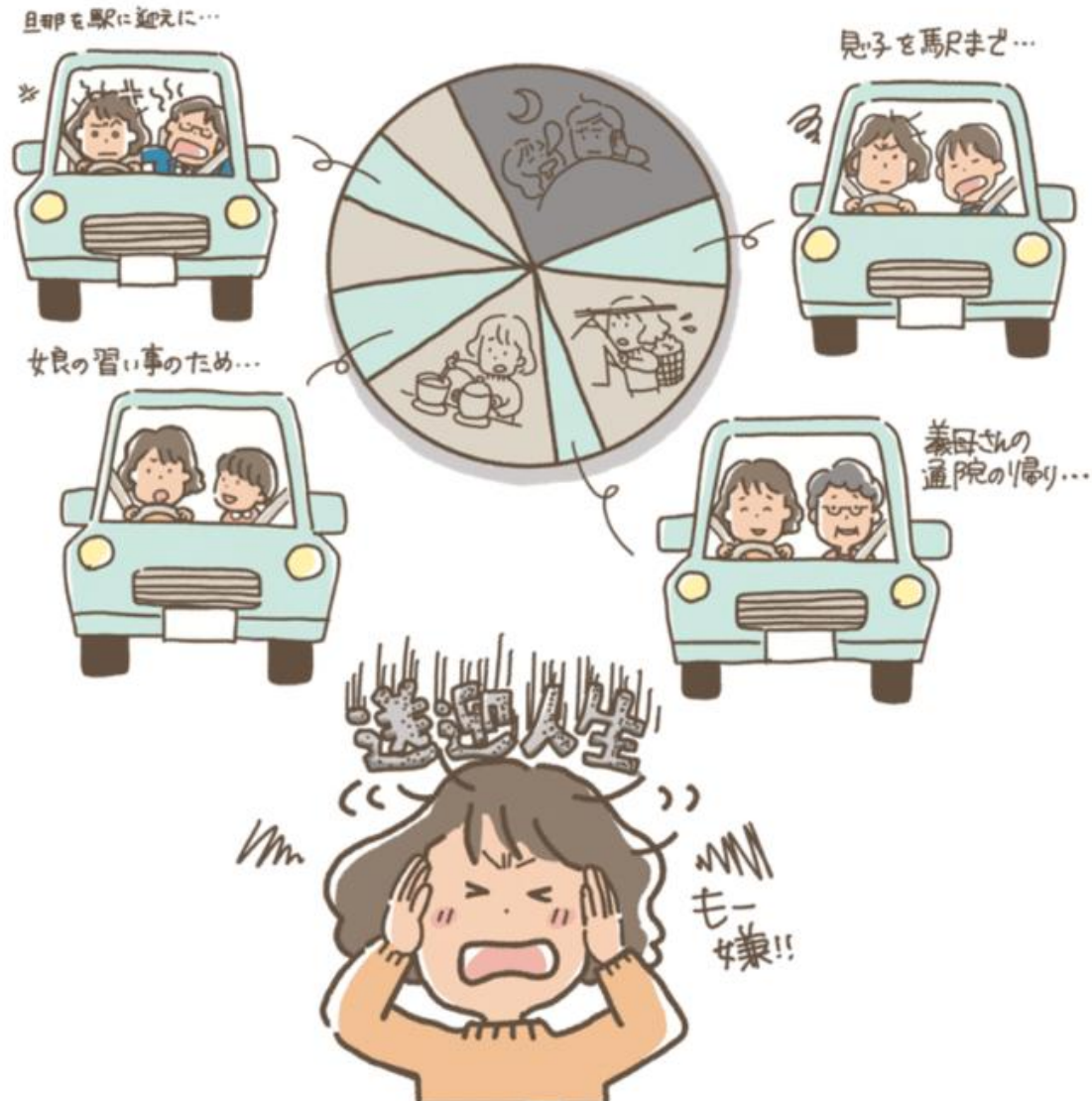
送迎の担い手にとって・・・

送迎の担い手にとっては、送迎を行うことによって時間的な損失が生じてしまう。

子どもたちの通学の送迎に留まらず、パートナーの通勤、高齢家族の通院、さらに子どもたちの塾やスポーツ教室などの送迎等さまざまな送迎が連続してしまい、終日送迎ばかり行うことになりかねない。まさにこれぞ「送迎人生」だ。

また、送迎の担い手にとって送迎で自分の時間が取られるだけでなく、外で働くことや社会参加の機会を失ってしまい、自らの成長や自己実現の機会も喪失しかねない。

「送迎人生」の悩み も一嫌！



送迎交通が公共交通を阻害

送迎する人と送迎される人との関係だけでなく、まちへの影響も生じかねない。

例えば送迎する自動車が集まる大きな鉄道駅の駅前などでは、送迎車による駅前渋滞が発生している。このため路線バスが渋滞に巻き込まれて定時運行ができない等の状況も発生している。特に雨天の際の帰宅時には、鉄道から降車してくる家族を待つ自動車が駅前に集中して路線バスの運行を著しく阻害する場合も少なくない。

送迎と人口定着

送迎人生が地域の人口減少にもつながるという話もある。送迎を担っているのは主に女性で男女比にすると3:7。中でも35～44歳の女性の割合が特に大きい。「送迎人生」の役割を担っているのはお母さんなのだ。このお母さんの様子を見て、その娘さんたちは、自分がこの場所に住み続ければ、**母と同じような「送迎人生」**が待っていると感じてしまう。送迎人生から逃れるために**送迎をしなくても自律的に移動が可能な地域に居住場所を移したい**と考える。結果として、こうした地域は**人口流出**が進むことになってしまう。

山陽新聞がシンポジウム

2025/06/30 朝刊

2025年(令和7年)6月30日 月曜日 全 県

子どもの通学、パートナー通勤、親の通院…

「送迎人生」負担軽減を

山陽新聞社は7月13日のシンポジウムを前に「送迎人生」に関するオンラインアンケートを行う＝QRコード。切実な実情をシンポ当日に報告する。



シンポ聴講者も募っている。午後2時～4時、同社さん太ホール（岡山市北区柳井町）で開く。テーマは「交通革命、前夜～移動手段をつなぎ、みんなを笑顔に～」。

来月10日までアンケート

申し込みは特設サイト＝QRコードか、はがき、ファクス（086-803-8502）に住所、氏名、年齢、職業、電話番号、聴講人数、メールアドレスを明記し、〒700-8634 山陽新聞社「吉備の国シンポジウム」係へ。

いずれも締め切りは7月10日。問い合わせは吉備の国プロジェクト推進センター（086-803-8091、平日午前9時半～午後5時半）。

岡山市南区の団体職員 理事長らの近畿圏での通勤分岐で明らかに大きな負担がうかがえる。ジェンダー（社会的役割）平等の観点から、子育て世代の母親らの負担軽減が求められる。送迎する側は自分の時間を犠牲にし、就業や趣味の機会が失われる。子育て世代は、通勤に必要となる「人口流出」の要因ともなる。負担軽減の好事例がある。岡山市は2022年、民間バスの2路線を市営に転換した。便数や運行時間帯はほぼ引き継ぎ、運賃は1乗車100円など、と格安にした。すると利用者は1・5倍と



朝通やサッカーの習い事、学童保育などの送迎の車が次々と訪れる小学校の駐車場＝岡山市内

らも問題視される。目的としては学校や塾、医療・福祉施設、駅などが上位。送迎する側は自分の時間を犠牲にし、就業や趣味の機会が失われる。子育て世代は、通勤に必要となる「人口流出」の要因ともなる。負担軽減の好事例がある。岡山市は2022年、民間バスの2路線を市営に転換した。便数や運行時間帯はほぼ引き継ぎ、運賃は1乗車100円など、と格安にした。すると利用者は1・5倍と

「送迎人生」という言葉がある。マイカーで、子どもの通学や塾通い、パートナーの通勤、親の通院といった送迎を通じて1人が抱える大変さを表している。地



方では、移動を送迎に頼るケースは多いとみられる。負担を減らすにはどうすべきか。7月13日の地域交通がテーマの本紙シンポジウムで話し合う。

来月13日 本紙交通シンポで議論

2・8倍に増えた。通学定期は2・3倍増。定期代の大幅低下で利用しやすくなり、送迎から変わったケースが多いとみられる。先の調査分析で送迎に頼る割合は、都心、バス水準を高めることが必要だ」と話す。（古舞野子、岡山一郎）

「送迎人生」の負担軽減を 山陽新聞交通シンポで議論

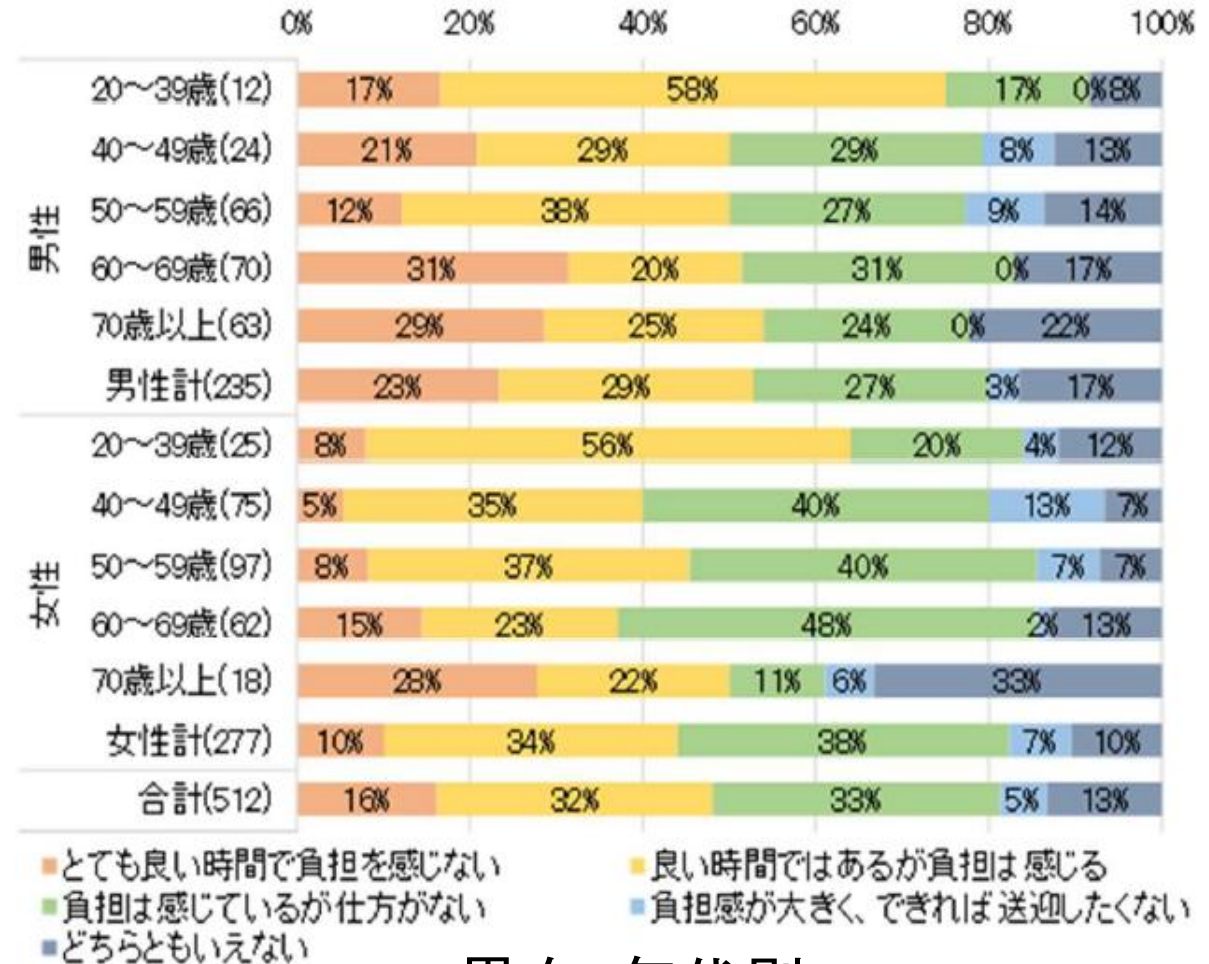
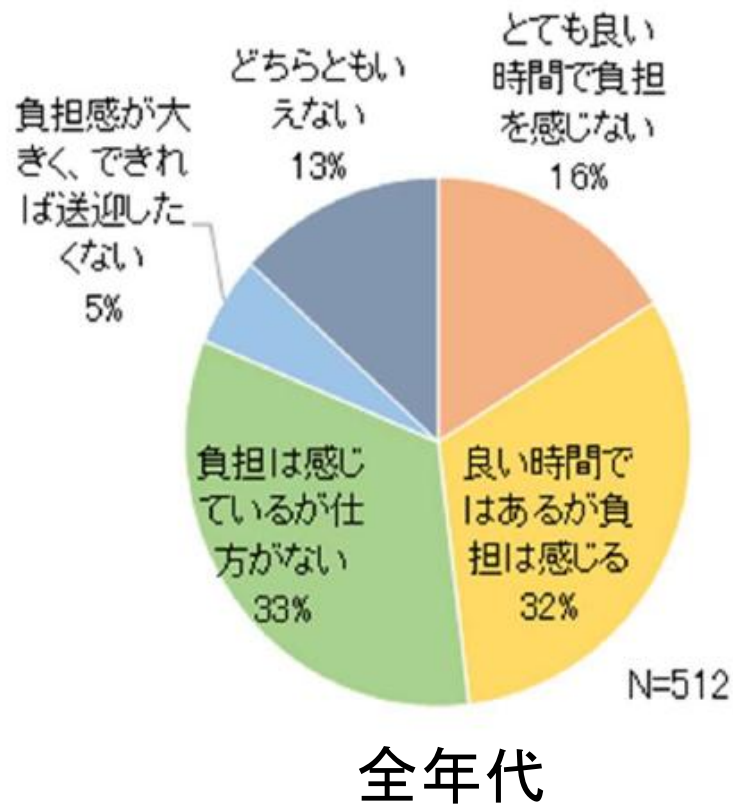
「送迎人生」という言葉がある。マイカーで、子どもの通学や塾通い、パートナーの通勤、親の通院といった送迎を過度に1人が担う大変さを表している。地方では、移動を送迎に頼るケースは多いとみられる。負担を減らすにはどうすべきか。7月13日に岡山市で山陽新聞が主催して地域交通がテーマのシンポジウムでこの話題について議論がなされた。

シンポジウムのパネルディスカッション



事前アンケートから 送迎をどう捉えているのか

送迎を負担と感じているのか。良い時間と感じているのか。



アンケートの自由記述から

とても良い時間			
177	男性:60歳代	孫、学童保育	時間の余裕のある高齢者が自身の子供に関わらず、積極的に「送迎」に関わることで、地域のコミュニティの活性化に繋がる。
良い時間ではあるが負担は感じる			
214	女性:50歳代	自分の親、病院・買い物	親と過ごす残り少ない時間を共有出来ると思えば苦にならない
422	女性:40歳代	子ども、習い事	子供の習い事は今だけだから、と割り切れますが、お年寄りの送迎は先が見えない分、辛いでしょうね。
負担は感じるが仕方がない			
46	女性:40歳代	子ども、習い事	夫もときどきは代わりに行ってくれることがあるが、仕事のことを考えたら今以上にはお願いできないと思う。今の習い事を続けるのであれば送迎の負担感は解消されないが、どれかをやめさせてまで自分がラクをしたいとは思っていないので現状で構わない。
134	女性:30歳代	子ども、習い事	自分で行ってくれたらいい。 送迎以外にやらなければいけないことがありすぎるので、その負担を減らしてほしい。仕事や家事など。

アンケートの自由記述から

負担感が大きく、できれば送迎したくない			
343	女性、50歳代	子ども、習い事・学校園	・通学のため子供の送迎をしています。バスは廃線になり、地域のタクシー会社も休業し、また、JR駅まで自転車で行くには距離があり、車での送迎が必要です。送迎しないと、子供は学校にも行けません。 ・フルタイムに戻りたい。送迎が必要になり、パートに異動した。 ・免許返納などで移動手段に困っているのは、高齢者だけではないことを知ってもらいたい。
送迎をしていない			
387	女性、50歳代		現在は送迎はしていませんが子どもが独立する前は頻繁に送迎をしていました。…中略…。義理の両親のフォローのために病院や自宅に通いながらでしたので仕事終わりに病院へ行き急いで自宅に戻って夕飯の準備をし五分でお風呂に入って画塾のお迎えに行く。中略…そんな毎日でした。 自分の時間はほとんど取れない状態でしたが車の中で色んな話しが出来たことは良かったなと思います。後略

ディスカッションのテーマ・・・1
いなべ地域での「送迎人生」
実状はどんな感じですか？

ディスカッション・1 いなべ地域の「送迎人生」度は？

いなべ地域でもかなり重度の「送迎人生」を強いられているのでしょうか。「送迎人生」によってどんな望ましくない状況が起こっているのでしょうか。

事例を発表していただいて、**実状を共有**しましょう。

ディスカッションのテーマ・・・2
「送迎人生」軽減のアプローチ
いなべ地域でできることは？

ディスカッション・2 「送迎人生」を軽減するために

現状の「送迎人生」、どんなことを改善すればその重荷を軽減できるでしょうか。今、いなべでできることを考えてみましょう。

ディスカッションのテーマ・・・3
現状のいなべの公共交通で
ここに住む選択をしてくれるでしょうか？

ディスカッション・3 いなべは選ばれる地域になれる？

いなべ地域の公共交通は十分ですか？若い世代はこの地域を定住地として選んでくれるでしょうか。

この地域が若い人たちの定住地として積極的に選んでもらえるようになるにはどうしたら良いでしょうか？